

平成24年度

事業報告

自 平成24年4月 1日
至 平成25年3月31日

はじめに

公益社団法人として新たなスタートを切った京都染織文化協会は、日本の染織文化、染織技術の啓発と継承を目的に、様々な公益事業に取り組んでおりますことにご高承の通りと存じます。我が国の民族衣装であるきものや伝統的染織品は、ライフスタイルの変化に伴い需要の減少に歯止めがかからず、いわゆる「きもの離れ」と言われる状態が久しく続いています。加えて職人の高齢化や後継者不在による技術伝承の困難など、作り手側にとっても厳しい状況に直面しており、きものは日本のシンボリックな役割を持ちながらも、一方でそれらを取り巻く現状と環境は危機的な状況に瀕していると言っても過言ではありません。

果たしてきもの離れはライフスタイルの変化だけが原因でしょうか。歴史を見ると、きものを含む日本の衣服の文化は日本人が歩んできた軌跡を反映しており、常に時代に影響を受けながら継承と発展を続けてきました。その原動力は作り手と着装者相互による確かな目と知識であり、お互いが伝承し、継承することで次代の着装者を育てていったことが伺えます。このようなコミュニケーションとバトンの引き渡しがいつしか希薄になったことが、きもの離れの一因にあると考えられます。

我々京都染織文化協会は、伝承と継承の重要性を伝え、染織祭衣装や全国染織産地合同制作布地という文化的価値のある所蔵資料を基にして、染織文化と染織技術を次代に繋ぐべく、今年度は後記の通り事業を推し進めてまいりました。

今後も引き続き会員各位のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成24年度 事業報告

1. 会員の加入及び退会

	期首	期中		期末
		加入	退会	
会員数	60	0	5	55

退会商社：(株)大塚、菱一(株)京都店、増田(株)、丸八(株)、丸服(株)

2. 会務

■第64期通常総会

平成24年 5月25日	京都ブライトン ホテル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成23年設立事業年度事業報告(2011.12~2012.3)承認の件 2. 平成23年設立事業年度決算報告(2011.12~2012.3)承認の件 3. 平成24年度事業計画(案)承認の件 4. 平成24年度収支予算(案)承認の件 5. その他
----------------	----------------	--

■理事会

平成24年 10月15日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 京都プリント振興協会『メイキング・ワークショップ2013』に対する当協会の共催名義使用許可並びに賞状の交付承認について 2. その他
-----------------	------	--

平成25年 1月23日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> 1. PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ実行委員会主催『PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ』に対する当協会の協賛名義使用許可並びに協賛金(10万円)の交付承認について 2. その他
----------------	------	---

平成25年 3月22日	京都産業会館 5階会議室	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成25年度事業計画(案)の件 2. 平成25年度収支予算(案)の件 3. 代表・業務執行理事の職務執行報告 4. 第65期通常総会の件(任期満了に伴う役員改選) 5. その他
----------------	-----------------	---

3. 実施事業

■公益事業

(1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

衣装制作の背景となった昭和6～15年に執り行われた染織祭について北野裕子氏（龍谷大学非常勤講師）に調査を依頼し、その成果を当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に掲載して一般社会に広く啓発した。（継続事業）



* 染織技術アーカイブの作成並びに公開

所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で、染織祭衣装は北川満哉氏（学芸員）、全国染織産地合同制作布地は福井健二氏（染織専門家）に調査、解説を依頼し、今年度は次の通り公開した。

（新規公開内容）

「染織衣装」／安土桃山時代衣装 24 領

公開技術 「織る」……平絹／練貫
「刺繍」……割繍／渡し繍

「全国染織産地合同制作布地」／所蔵資料説明並びに 1999 年春・夏物向布地 1 点
公開技術 「織る」……オーガンジー／シャンブレイ

「ワシヘーン」ト 染織技術アーカイブ
染織技術アーカイブ「織る」

トップページ ト 染織技術アーカイブ
染織技術アーカイブ「織る」

練貫 ねりぬき

「練緯」とも書く。経糸に生糸、緯糸に練糸を使った平織の絹織物。小袖の地質として室町時代、安土桃山時代に多用されたが、江戸時代には総纏、縮子の技術が確立して人気を博し、地質はほぼ完全に総纏、縮子に移行した。
急速に衰退した練貫とその技術は、染織衣装が復元された昭和6～8年までは継承され制作も可能であったことが伺えるが、現在は技術継承がされていないため制作されていない。



オーガンジー organdie, organdy

経緯1本ずつの糸を交互に組み合わせた平織の薄地の織物。薄地のため透けており、軽量でエアリー感、柔質感、光沢感がある。
絹でできたものはシルク・オーガンジーという。
婦人用のエレガントなドレスやブラウス、スカーフ等の生地として使用される。



* 染織祭衣装の補修・修繕

今年度は平安時代の衣装を対象とした補修・修繕を行う予定であったが、奈良時代衣装「^{そえおび}紙帯」の作業が長期化したため、引き続き取り組んだ。

<対象衣装>

奈良 1、2、3、6、8、9、10、12、13、20 号の「紙帯」

<依頼先>

高田装束店京都店（京都市上京区）

* 所蔵資料貸付協力

（染織祭衣装）

◎夏季特別展「天地を巡る日月星宿—七夕・^{きちこうてん}乞巧奠と夏の^{にちげつせいしゆく}大祓—」への衣装貸付

展示期間 7月7日（土）～8月12日（日）

会場 城陽市歴史民俗資料館（城陽市寺田）

内容 七夕・乞巧奠と夏の^{にちげつせいしゆく}大祓をテーマに、関連資料を用いて日本の風習の魅力
力を伝えた。

貸付衣装 上古時代、奈良時代より各1領並びに道具類

入場者数 1,146名

◎「^{マエストロ}巨匠フォルチュニイの夢 2012 ^{シルク}絹 見聞録」への衣装貸付

展示期間 10月18日（木）～平成25年1月8日（火）

会場 神戸ファッション美術館（神戸市東灘区）

内 容 18世紀から現在までの古今東西の名作絹織物を一堂に集め、絹糸から精緻な技法によってさまざまな表情を見せる絹織物の魅力を紹介した。

貸付衣装 上古時代～江戸時代後期より合計11領並びに道具類

入場者数 4,403名

(全国染織産地合同制作布地)

◎「ジャパンテキスタイルの未来展」への布地貸付

展示期間 7月18日(水)～20日(金)

会 場 インターナショナルファッションフェア内(東京ビッグサイト西館)
(一般財団法人日本ファッション協会アジアファッション連合会ブース)

内 容 国内外のメディア、小売バイヤー、ファッション関係に向けて日本の誇るテキスタイルを展示発表した。

貸付布地 2001/2002AW～2004/2005AWより5点

入場者数 25,030名(インターナショナルファッションフェア全体)

(染織祭衣装画像貸付)

◎「認定講師が教えるカラーコーディネイター2級テキスト&問題集」

出 版 社 成美堂出版(株)

貸付画像 立涌小花折枝文様小袖(安土桃山時代)

◎「一発合格!カラーコーディネイター2級完全攻略テキスト&問題集 第2版」

出 版 社 (株)ナツメ社

貸付画像 立涌小花折枝文様小袖(安土桃山時代)

◎「歴博 174号～吉川観方コレクションの形成と活用状況から～」

発 行 先 国立歴史民俗博物館編集・発行

貸付画像 浅葱縮緬地柳桜草紙短冊文様小袖(江戸時代前期)

(2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

*子ども向け染織技術啓発冊子の制作と配布

きものをより身近な衣料として受け止めてもらおうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、子どもが初めてきものを着るシーンである十三まいり、七五三詣りに於いて次の通り配布した。(1,000部制作)

<配布先>

◎十三まいり

日 時 4月8日(日)

配布場所 ご清遊の宿らんざん(嵐山)

配布先 京都新聞・織商主催の十三まいり参詣者 200名に配布

◎七五三詣り

日 時 11月10日(土)

配布場所 平安神宮

配布先 京都新聞・織商主催の七五三詣り参詣者 300名に配布



*染織文化セミナーの開催

◎「邪馬台国卑弥呼と古墳時代の女性衣装」

日 時 10月30日(火) 14:00~16:00

会 場 京都産業会館 5F コムスホール

講 師 武田 佐知子 氏 (大阪大学大学院文学研究科教授・歴史学者)

内 容 日本の染織文化の基盤となった古墳時代にスポットをあて、古墳時代の社会や文化、衣服について語るとともに当協会所蔵の上古時代衣装4領並びに道具類を展示し、染織技術の啓発をはかった。

受講料 無料

広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付

(一般) 10/15 京都新聞夕刊に広告掲載

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 58名

◎「飛鳥から奈良時代の衣裳の変遷と染織文化」

日 時 平成25年3月22日(金) 13:30~15:30

会 場 京都産業会館 5F コムスホール

講 師 井筒 與兵衛 氏(風俗博物館 館長)

内 容 飛鳥から奈良時代に栄えた華やかな文化と動乱の東アジアを背景にした服装の変遷を語るとともに風俗博物館復元衣裳と当協会所蔵の奈良時代衣装3領並びに道具類を展示し、染織技術の啓発をはかった。

受講料 無 料

広 報 (会員・関係団体・美術館等) 当協会より案内送付

(一般) 3/11 京都新聞夕刊に広告掲載

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 84名

*インターネットミニ染織講座の開催

◎「きものの歴史①—上古時代—」

開催場所 当協会ウェブサイト内「インターネットミニ講座」

更 新 日 平成25年1月7日

内 容 北川満哉氏(学芸員)の解説で、染織祭衣裳の現物を用いて衣服の構造と柄(文様)に使われた技術について説明した動画をインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし当協会ウェブサイト上で配信した。

トップページ ▶ インターネットミニ染織講座
インターネットミニ染織講座

きものの歴史シリーズ

■きものの歴史の「上古時代」(約5分)

大陸の文化に影響を受けた上古時代の衣生活は、埴輪などの出土品により伺い知ることができます。この動画では、染織祭衣裳の現物を用いて衣服の構造と柄(文様)に使われた技術についてご説明しています。



(3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき下記事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会主催「メイキング・ワークショップ 2012」への共催

会 期 11月9日（金）～11日（日）10:00～19:00※最終日 18:00
会 場 京都府京都文化博物館別館（中京区三条高倉）
制作テーマ ECO/DECO シリーズ PART3 WATER CYCLE/水循環
出 展 者 14社 21組
内 容 染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。当協会からは共催名義許可並びに京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。

来場者数 2,417名

◎PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ実行委員会等主催「PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ」への協賛

会 期 平成25年2月23日（土）～3月24日（日）9:00～17:00
会 場 京都市美術館（左京区岡崎円勝寺町）
出 品 者 全国の推薦委員から推薦された若手～中堅作家 21名
内 容 若手から中堅の作家たちによる版画の豊かな表現を通じて、日本の伝統文化としての版画、そして現代の版画表現の多様性を世界に向けて発信した。当協会からは協賛名義許可並びに協賛金（10万円）の交付を行った。

来場者数 5,528名

■会員事業

*会員向染織講座

当協会主催講座は継続検討とし、今年度は関係先講座を会員へ案内した。

◎「江戸のきものと文様—装いにまつわる3つの不思議—」

（奈良女子大学大学院人間文化研究科生活文化学専攻主催学術講演会）

日 時 11月22日（木）14:40～16:10

会 場 奈良女子大学 E261 教室

講 師 丸山 伸彦氏（武蔵大学人文学部教授）

案 内 先 当協会会員へ案内を送付

*京都プレス事業

伝統的な染織技術と先端技術を融合させてまったく新しい素材の開発と加工を行い、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で取り組み、今年度は次の通り開発を行った。(継続事業)

<開発素材>

- ・グラスファイバー (用途：インテリア、洋装 (ブライダル) 製品)
- ・特殊撚糸シルク (用途：和装 (きもの) 製品)

*その他

会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行った。